

グリーンフェスタ in 吉無田

5月3日、吉無田高原「緑の村」で、草スキー大会が開催され、町内外からの多くの家族連れでにぎわいました。晴天の中行われた大会では、小学生の部と親子の部の2部門で行われ、参加者は吉無田の斜面を爽快地に滑り降りていました。小学生の部で優勝したのは、福岡県太宰府市から家族で訪れた松村蒼汰さん。「意外とスピードが速くてびっくりした。また参加したい。」と笑顔で話しました。大会後は、吉無田かあちゃん会手作りのだご汁が振る舞われ、参加者はおいしそうに食べていました。



一斉に滑り出し、一気に加速!!



蝸窯で語らう人たち

蝸窯～2018春の窯びらき

5月3日から5日にかけて、蝸窯で春の窯びらきが行われ、同時にヒグラシマルシェも開催されました。窯びらきでは、新作の器をはじめ、普段使いの器から、生活を彩るランプシェードまで幅広い作品がならびました。ヒグラシマルシェでは、焼きカレーや石窯ヒグラシピザなどのさまざまフードエリアや衣類、雑貨、アクセサリーなどが立ちならぶ店に多くの人々が訪れました。昼からは、野外ライブが行われ、訪れた人たちは、心地よい春の日差しを感じながら、ゆったりとした3日間を過ごしました。



JAかみましき女性部御船支部育苗部会と集合写真

苗をプレゼント

5月11日、JAかみましき女性部御船支部育苗部会（野口英子会長）からマリーゴールドや千日紅などの花の苗約2,600本、トマト、水前寺菜などの野菜の苗約300本が町内の施設に贈られました。これは毎年、環境美化や食育の推進などに役立てようと、同部会で育てた花や野菜の苗を贈っているもので今年で20回目になります。野口会長は「できるだけたくさんの人たちの元へ届けて、大切に育ててもらいたい」と話しました。



「早く大きくなあれ!」

上野保育園児が芋の苗植え

5月11日、上野保育園（上村いつ子園長・31人）が川口勝行さん（上野）の畑で芋の苗植えを行いました。日ごろ体験できない農業体験や地域との交流を目的としており、園児たちは苗を植えるために、棒で土に穴を掘り、川口さんの指導を受けながら、丁寧に植えました。植えた芋苗は、糖度が高く、美味しい紅はるか約600本。収穫が待ち遠しくて仕方ない園児たちは、「早く大きくなあれ!」と元気よく呼びかけました。収穫は秋の予定です。



杉本末男さん(左)、原口福次さん(中央)、城戸久さん(右)

創意工夫育成功労学校賞を受賞

御船中学校（井上幸三校長・359人）のものづくり部が科学技術分野の文部科学大臣表彰で“創意工夫育成功労学校賞”を受賞しました。これは、同部が近年、「創造アイデアロボットコンテスト」での全国大会での実績や昨年の「木工チャレンジコンテスト」で日本一の称号となる文部科学大臣賞を受賞するなどの実績が評価されたもの。藤井裕輝部長は「今までの先輩たちが頑張ってきた結果です。その結果に恥じないように、今年は全国優勝目指して頑張りたい」と話しました。



たくさんのバラに囲まれながら

旧くまもと野鳥の森で清掃奉仕

御船町高木にある「旧くまもと野鳥の森」の遊歩道で野鳥の森愛護会がボランティア清掃に汗を流しています。熊本市に在住している原口福次さんは、草や木で生い茂っている遊歩道を4年前から草刈りを始め、機械も自費で購入し、活動に賛同してくれた2人の仲間とともに日々草刈りに奮闘しています。「数十年前に訪れたら、草や木が生い茂っていた。昔の遊歩道を取り戻したかった」と話す今年93歳の原口さん。一帯はツツジや山桜などの自然やオシドリや鴨など野鳥が多数生息しており、森林浴を体感できます。野鳥の森愛護会は、新たな仲間を募集しています。事務局：原口さん（☎096-369-9008）



熊本県では、御船中学校の1校のみの受賞となりました

色とりどりのバラに囲まれて

4月下旬から5月上旬にかけて、多くの人が訪れる緒方鎮雄さん（滝川）の庭に作られたバラ園。つるバラを中心とした約250種類のバラを楽しめ、自由に見学できることで人気が広がっています。甲佐から見にきた木村さん夫妻は「毎年楽しみにしています。こんなにきれいでたくさんのバラ、素晴らしい言葉しかありません」と絶賛の声。今年も五庵橋の河川道路沿いの花壇には、ほのかな香りを感じるバラを植え、通りゆく人たちの心をほっこりとさせています。



受賞した元町消防団団長の梶原光典さん(右)